8月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下10農林事務所農業普及課と農業経営課技術支援係の取組～

岐阜県農政部農業経営課

８月の普及活動状況ダイジェスト版

活力ある新産地づくり

中濃農林■円空さといも　大学生に対する食農教育支援

８月２２日に関市の円空さといも生産ほ場で、岐阜大学地域科学部の学生が、除草と追肥の農作業体験を行った。この取組は、岐阜大学が食農教育の一環として６年前から行っている。

農業普及課では、作業方法について説明するなど支援を行った。作業体験では、ハスモンヨトウやスズメガを見て驚きの声をあげる場面も見られた。

学生達は、初めて体験することも多く、地域の農業を学ぶ良い機会となった。

【手で除草作業をする学生】

売れる農畜産物づくり

岐阜農林■ブロッコリー　いよいよ育苗開始

ＪＡぎふブロッコリー生産連絡協議会では、８月１日から 23 日まで、全自動播種機でブロッコリーの播種作業を行った。

セルトレーに播種されたブロッコリーは、ＪＡ施設、花き生産者、営農組織で 30 日程度育苗された後、生産者へ配布する計画である。

農業普及課では、栽培管理方法の指導を行っている。

なお、平成 24 年度産の栽培面積は、約 15ha（前年度 12.5ha）の見込みである。

【ブロッコリー播種風景】

西濃農林■冬春トマト　個人面談を実施

農業普及課では、平成 25 年産の施肥設計を中心に栽培管理の指導を行うため、７月 24 日から８月 16 日にかけて、西濃地域の各生産組合（海津トマト部会、池辺園芸トマト組合、輪之内園芸トマト部会）に対して、個人面談を実施した。

冬春トマトは、塩類過剰のほ場が多いため、必要最小限の土壌改良資材の施用に留めるよう指導を行った。また、土壌の保肥力を高めるため、腐植を主成分とした濃縮堆肥を継続して施用するように指導を行った。

施肥管理以外にも、病害虫対策、高温対策、生理障害等の様々な課題について相談があった。今回の相談内容を踏まえ、今後とも各生産者への支援を行っていく。

可茂農林■夏秋トマト　収穫体験バスツアー好評

美濃白川夏秋トマト産地戦略会議（ＪＡめぐみの、白川町、東白川村、美濃白川夏秋トマト部会、農林事務所で構成）が、東白川村のトマトを消費者にＰＲするトマト収穫ツアーを７月 27 日、８月６日、８月 10 日に実施した。この取組は、今年で２年目となる。

トマト収穫ツアーは、学校給食用の野菜を作る高齢者のトマトハウスで行われた。ツアー参加者からは、一様に「おいしい」などの意見が聞かれ好評であった。

【トマト収穫ツアー風景】

農業普及課では、生産者への栽培技術指導の他、産地の活性化に向けて産地戦略会議内の各機関との調整を行うなど、支援を行っている。

下呂農林■飼料イネ　目指せ！下呂市流「農畜連携」ＷＣＳイネの収穫

下呂市では、飼料イネをＷＣＳに用いた場合の適応性について検討している。飼料イネ品種「夢あおば」が、収穫適期となったため、８月 20～21 日に地元和牛一貫経営農

業者が、農林事務所（農業振興課、農業普及課）、下呂市、ＪＡ等とともに、水稲用アタッチメントを装着したＷＣＳ専用コンバインで収穫作業を行った。

面積約１ｈａで３００ｋｇのＷＣＳが約４０ロールでき、概ね目標の収量であった。これまで農業普及課では、飼料イネの栽培指導を行ってきた。今後は、ＷＣＳの栄養分析や給餌試験の結果を整理し、次年度以降の生産指導、普及の検討を行う。

【飼料イネ収穫風景】

飛騨農林■飛騨トマト　地球温暖化対策の現地検討会を開催

飛騨農林事務所では、地球温暖化戦略的対応体制確立事業として、生産者の協力の下、夏秋トマトで高温対策の実証ほを設置している。8月22日に関係者(全国農業改良普及支援協会、中山間農業研究所、農業経営課)とともに、実証ほの現地検討会を開催した。

【現地検討会の様子】

農業普及課からは、各実証試験（通路灌水、土壌鎮圧、灌水量、葉柄中硝酸イオン濃度）の途中経過を説明した。また、各実証農家からは、それぞれ具体的な意見が出た。通路潅水の実証農家からは、「通路潅水を行ったほ場は、生育が旺盛で葉先枯れも少ない傾向がみられる」といった話が聞かれた。検討会では、質疑・応答が飛び交うなど、熱心な議論が行われた。今後は、収穫終了まできめ細かい調査を行うこととしている。

多様な担い手の育成・確保

東濃農林■農業経営者　視察研修会を実施

土岐地域農業経営者協会（会長：右高一朋、会員 19 名）は、農業普及課の支援を受けて、８月７日に新規就農者や関係機関も巻き込んだ視察研修会を実施した（参加者 22 名）。

【小林会長の話に聞き入る参加者ら】

午前は、地産地消の事例調査として伊那市の「（株）産直市場グリーンファーム」を訪問した。この直売所では、平成６年の開設から毎年出荷者が増え続け、現在では 2150 人となり、売上げも 10 億円となっている。成長を続ける直売所の条件は何か、話を聞いた。小林会長からは、「毎週の現金精算」、「地域の自然や文化をすべて商品化」、「生産者をしばらない」、「宣伝は口コミのみ」、「生産者こそ消費者」など独特の秘訣が次々と飛び出した。参加者も大変興味をもち、多数の質問が出た。

午後は、優良経営の事例調査として駒ヶ根市の「(有)信州ナーセリー」を訪問した。ミニサイズ鉢花を中心とした花き経営の現状、担い手・後継者育成等について社長から話を聞いた。

農業普及課では、今後、経営者協会として新規就農者の育成に向けた活動ができるよう支援を行っていく。

恵那農林■トマト・なす　夏秋トマト及び夏秋なす栽培見学ツアーを開催

８月２８日に東美濃夏秋トマト生産協議会及び東美濃夏秋なす生産協議会では、新規生産者の確保を目的に栽培見学ツアーをそれぞれ開催した。参加者は、両品目のチャレンジ塾受講者と一般申込み者で、参加人数は、トマトコース９名、なすコース１２名であった。

【生産者から説明を受ける参加者】

各コースごとに生産者のほ場と選果場を見学した。生産者のほ

場では、生産者から直接、栽培管理の概要や生産出荷の苦楽等の説明を受けた。参加者は、生産出荷活動を身近に感じることができ、自分自身が取り組む際のイメージを抱いている様子であった。

農業普及課では、新規生産者の確保とともに協議会が自主的かつ活発に活動することを目的として本ツアーに関わり、コース選定や資料作成を中心に運営支援に取り組んだ。

また、協議会役員と参加者が交流できるよう話題を提供するなど、生産者が積極的に発言できるよう努めた。

高齢化等で産地縮小が危惧されるが、チャレンジ塾と併せて生産者組織による新規生産者育成事業として活動の継続と成果が期待される。

魅力ある農村づくり

揖斐農林■そば　「いび源流そば」産地づくりの取組みがスタート

西美濃夢源回廊協議会（揖斐川町、池田町、大野町、本巣市で構成）では、道路網の整備と合わせて、中山間地域の特産品としてそば栽培の振興を決定し、県に対する支援要望がなされた。これを受けて農業普及課では、揖斐川町久瀬の揖斐高原貝月リゾート日坂ゲレンデにおいて、そば栽培の実証試験（約１ａ）に取り組んでいる。そばの安定生産のため、作付体系や使用資材、機械装備、獣害対策等について検討し、６次産業化や町おこしも視野に入れた産地拡大を推進する。

【農家が栽培するそば畑】

郡上農林■明宝地域　耕作放棄地の再生農地で栽培した「らっきょう」の収穫体験

郡上農林事務所では、農地整備課と農業普及課との連携により、明宝地域の耕作放棄地を再生した農地でのらっきょう栽培を支援している。

８月８日に、都市住民（ＮＰＯ団体「山と川の学校」に体験に来た子供たち）を対象に、ふるさと水と土指導員の活動（岐阜県ふるさと農村活性化対策事業）の一環としてらっきょうの収穫体験を実施した。

【らっきょう収穫体験】

収穫体験では、「らっきょうがどのような姿で収穫されるのか初めて知った」、「簡単に収穫できる」など多くの意見が聞かれた。

収穫後は、近隣の民宿で採れたての「らっきょう天ぷら」が参加者へ提供され、「美味しかった」と大変好評だった。

普及指導員の資質向上

農業経営課■普及指導員　普及手法研修を実施

８月２８日、普及経験１年目の職員を対象に、普及手法研修を開催した。第２回目の今回は、これまでの活動を報告してもらい、半年間の普及指導活動を振り返った。

対象職員は普及経験が浅いとはいえ現場からは即戦力として期待されており、活動報告からは、農家指導に対して大変苦労している様子が伺えた。午後は、先輩普及指導員や農業革新支援専門員を交え意見交換を行い、対象職員からは困ったときの相談先や対処方法などについて質問が出され、参考文献の紹介、役立つ人脈づくりのすすめ等の助言を行った。

【先輩普及指導員と語る会】